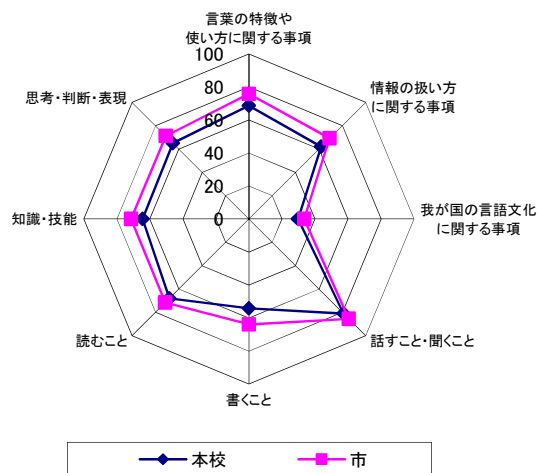


宇都宮市立新田小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.7	75.8	77.5
	情報の扱い方にに関する事項	61.9	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	29.8	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	81.0	85.5	86.5
	書くこと	54.2	63.9	65.8
	読むこと	68.1	71.6	69.5
観点別	知識・技能	64.5	71.3	72.9
	思考・判断・表現	65.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

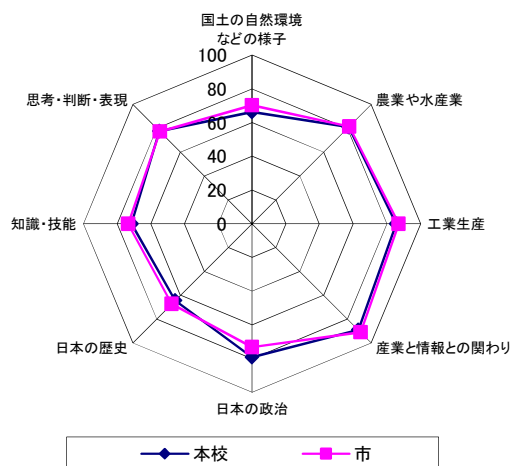
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より7.1ポイント下回った。 ○「第6学年に配当されている漢字を正しく読む」問題は市の正答率と同程度であったが、「第5学年に配当されている漢字を正しく書く」問題は市の正答率を下回った。 ●「文と文との接続の関係を理解している」問題では、市の正答率を17ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科以外の教科においても、ノート指導など文章を書く機会を増やす。 書き終えた文章を見直す習慣を身に付けるとともに、習った漢字は意識して使うように指導する。 前年度の学習内容を、朝の学習での小テストやAIDリル等で復習する。
情報の扱い方にに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より7.2ポイント下回った。 ●「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題では、市の正答率を7.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の要点を捉え、要約する力を育むために、授業や朝の学習等で、新聞や補助教材から簡単な文章を読み取る活動を取り入れていく。 調べ学習において、図書資料やデータを活用してまとめられるよう、目的や意図に応じた情報を抜き出し、簡潔な文章を書くようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より3.7ポイント下回った。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解する」問題では、正答率が3割程度だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言葉の由来や成り立ちについて触れ、クイズを作成したり答えたりする活動を取り入れることで、言葉の面白さに気付くようにし、興味関心をもって学習できるようにする。 前年度の学習内容を、AIDリル等を活用して復習する。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より4.5ポイント下回った。 ○「意図に応じて話の内容を捉えている」問題では、市の正答率と同程度だった。 ○「話の内容を捉える」問題では、市の正答率と同程度であった。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える」問題は市の正答率より6.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業の中で、大事なところに線を引いたり、メモを取りながら話を聞いたりする練習を行い、聞き取り問題に慣れるようにする。 話の内容を聞き取ることができるように、国語の学習だけではなく学級活動や児童会活動等の中でも、児童同士が対面でインタビューをしたり答えたりする活動を取り入れる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より9.7ポイント下回った。 ●「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている」問題では、市の正答率を16ポイント下回った。 ●「文章全体の構成や展開を考えている」問題では、市の正答率を11ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割について意識して文章を読み取ったり、書いたりできるよう繰り返し指導する。 条件に合う文章作りができるよう、授業で文字数や段落構成の指定などを取り入れる。 反論を予想しながら自分の意見をまとめたり、多様な考えをもてるような活動を取り入れたりするなど、国語科をはじめとして他教科においても継続的に指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より3.5ポイント下回った。 ○「目的に応じて、文章の情報を整理している」問題では、市の正答率を3.8ポイント上回った。 ●「登場人物の様子について、描写を基に捉えている」問題では、市の正答率を7.4ポイント下回った。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」問題では、市の正答率を5.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情について想像しながら音読したり、図に表しながら読み進めたりするなど、指導方法の工夫を図る。 自分の好きな場面や登場人物について、根拠を明確にしながらか友達と伝え合うことで、様々な意見に触れながら学習できるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.3	70.3	66.4
	農業や水産業	81.1	81.6	75.3
	工業生産	85.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	89.2	91.0	81.3
	日本の政治	79.2	73.2	75.3
	日本の歴史	64.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	71.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	77.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

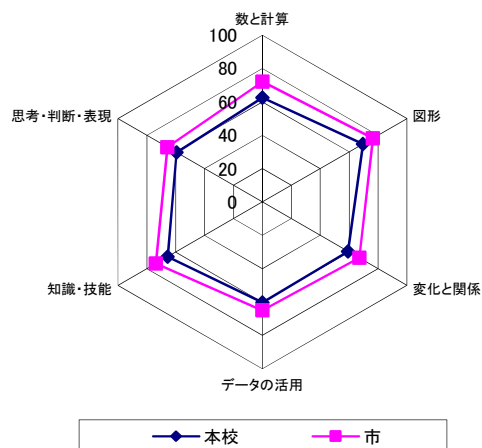
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より4ポイント下回っている。 ●「赤道」に関する問題については、市の正答率より12.4ポイント下回っている。 ●「人工林の役割」に関する問題については、市の正答率より6.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段の授業において、地図帳や地球儀を積極的に活用し、知識の定着を図る。 ○定期テストだけで学習内容を確認するだけではなく、デジタル地図帳を活用し、クイズ形式を取り入れながら問題を解いたり、調べたところに付箋を貼ったりするなどの工夫をする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市とほぼ同程度であった。 ○「米の生産が盛んな地域」に関する問題については、市の正答率を7.9ポイント上回っている。 ●「米の品種改良」に関する問題については、市の正答率より6.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳や補助教材資料を授業でも活用し、グラフや資料の読み取り方を改めて指導していく。 ○授業の中でスーパーマーケットなどで購入できる米の品種について話題として取り上げ、児童の興味関心を高めながら理解を深めさせる。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より1.5ポイント下回っている。 ○「自動車の製造工程」に関する問題については、市の正答率より3.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工場見学を実施したり、動画資料を活用したりすることで、児童の興味関心を高めていく。 ○自動車の部品を分類し、どのような順番で組み立てられているのか図で表しながら考えさせることで、理解を深める。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より1.8ポイント下回っている。 ●「情報の発信と受信」に関する問題については、市の正答率より3.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNS上のトラブルなどについて、身近な出来事と結び付けて考えさせることで、課題意識や判断力を身に付けられるようにする。 ○情報に関する教科横断的な内容を、学級活動や道徳の授業などで取り入れていく。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より6ポイント上回っている。 ○「日本国憲法」に関する問題については、市の正答率より11.9ポイント上回っている。 ○「租税の役割」に関する問題については、市の正答率より8.9ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法の三原則が、日常生活にどう関わっているのか具体例を挙げて説明しながら、さらなる知識の定着を図る。 ○政治が自分たちの暮らしとどう関わっているのか、ニュース等の話題を出して考えさせることで、政治に対してもっと関心をもてるようにする。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より2.9ポイント下回っている。 ○「江戸時代の禁教と鎖国」に関する問題については、市の正答率より11ポイント上回っている。 ●「鎌倉幕府の政治の仕組」に関する問題については、市の正答率より9.3ポイント下回っている。 ●「能」に関する問題については、市の正答率より19.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動画資料を積極的に活用し、視覚的なイメージを高めることで、児童の興味関心を高める。 ○歴史上の人物や出来事を取り扱う際に、その時代の前後の時間軸を捉えさせることで、つながりを意識させるようにする。 ○時代や単元ごとのキーワードを取り入れながらまとめの新聞作り等を行い、理解を深めたり知識の定着を図ったりする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	62.5	72.1	74.6
	図形	69.6	76.5	76.1
	変化と関係	59.3	67.1	59.7
	データの活用	60.2	65.0	64.5
観点別	知識・技能	65.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	59.4	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ問題による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

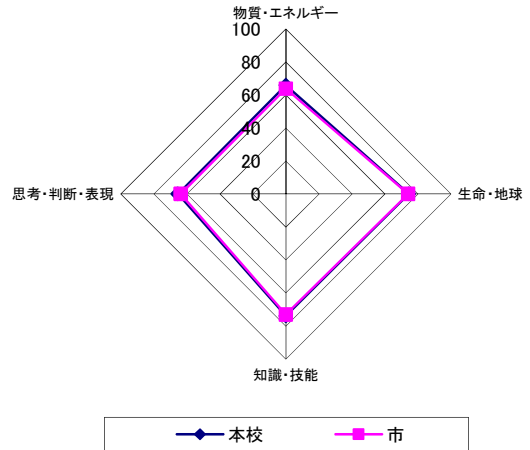
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より9.6ポイント下回った。 ○「小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえる」問題では、正答率が80%を上回った。 ●「真分数÷整数(約分1回)の計算」の問題では、市の正答率を17.2ポイント下回った。 ●「小数第一位×小数第一位の計算」の問題では、市の正答率を15.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時や朝学習の時間を利用して、計算問題を繰り返し解き、今後も基本的な計算力の向上を図る。 分数の計算において、解が出たときには約分の有無を必ず確認するよう指導していく。 小数×小数の計算は既習事項の整数の計算をもとに考えることを関連付けながら指導していく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より6.9ポイント下回った。 ○「3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する」問題では、正答率が90%を上回った。 ●「三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める」問題では、市の正答率を13.5ポイント下回った。 ●「半径が与えられた円の面積を求める式を理解しているかどうかを問う」問題では、市の正答率を11.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の外角の和を求める問題は、基礎をしっかりと再確認して、すでに分かっている数値や不足している数値を書きこむ等、情報を整理しながら考えるよう繰り返し指導する。 円の面積の公式について、ただ暗記するだけでなく、なぜ「半径×半径×円周率」になるのかを、面積図をもとに考えさせるようにする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より7.8ポイント下回った。 ●「基準量と割合から、比較量を求める」問題では、市の正答率を11.8ポイント下回った。 ●「表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する」問題では、市の正答率を11.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「単位量あたりの大きさ」では、「基準量」や「比較量」の意味について、言葉や図で分かりやすく説明する。 混み具合の意味や求め方について丁寧に扱い、基礎的な文章問題を繰り返し解かせる。また、何を単位量として考えているのかを意識しながら解くよう指導する。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より6.4ポイント下回った。 ●「ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する」問題では、市の正答率を6.6ポイント下回った。 ●「ドットプロットから、最頻値を読み取る」問題では、市の正答率を6.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表値とヒストグラムを比較しながら、資料の分析を適切に行えるよう指導する。 資料を分析する際に、どの代表値を用いるのが適切かをそれぞれの代表値のよさをもとに考えさせるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.9	63.8	61.6
	生命・地球	74.5	74.1	73.3
観点別	知識・技能	73.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	65.4	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ問題による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市より2.1ポイント上回った。 ○「水溶液の定義」を問う問題では、市の平均を10.8ポイント、「リトマス紙の反応と水溶液の性質」について問う問題では9.9ポイント上回っており、基本的な知識理解が進んでいる。 ●「振り子の周期の測定方法を理解しているか」問う問題では、市よりも7.5ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果や考察の表現方法を増やし、基本的な知識理解だけでなく、科学的な視点から学びを深められるように指導する。 事物・現象についてキーワードを設定し、考察の際に正しく取り扱って考えを表現できるように指導する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、市とほぼ同じであった。 ○「月、太陽、地球の位置関係と、月の見える形について」問う問題では、市の平均を7.2ポイント上回り、観察してまとめたことへの理解は深まっている。 ●「流れる水の働きによる『浸食』について」問う問題では、市の平均を8.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入や1時間の始まりに、今日の学習と関連のある既習事項や言葉を提示し、知識の定着を図る。 単元の中で繰り返し出てくる用語や考え方、現象に着目しながら考察を書くことを継続して指導する。